



土岐市	教育研究所
T E L	0572-54-1111 (内281)
F A X	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 537
発行責任者	所長 橋本 勇治
発行日	平成30年 1月10日
題字	山田 恭正 教育長

「コツコツ」が姿形に

土岐市教育研究所長 橋本 勇治

秋口から年の瀬にかけて、思いがけず朗報に接する機会が度々ありました。土岐市の学校や教職員が各種方面に渡って東濃や県、全国レベルで認められ、被表彰者となる、大変喜ばしいものです。

近年、土岐市教育委員会では各種展示会やスポーツ大会、コンクールなどにおいて優秀な成績を収めた児童生徒に対して、市として独自の表彰や報告会を行うことでその栄誉を讃え、今後の励みとしていただく取組を続けています。当市の子供たちが認められることは、私たちにとってこの上ない喜びであります。それを支え、育てくださっている学校や教職員が認められることで、その喜びも倍増します。

端緒となったのは、「岐阜県歯科保健優良校表彰」でした。肥田小が「特選校」、土岐津小が「準県1位」、妻木小と駄知小が「優良校」を受賞しました。県内他市と比較して、被表彰校数割合の高さもさることながら、土岐市内の小中学校が一丸となって「コツコツ」と継続して取り組み、内外にその成果を姿形にして示していることに価値があると感じています。奇しくもこのことが今回の市議会一般質問でも取り上げられ、その答弁では平成20年度の永久歯の虫歯罹患率が平成28年度にはほぼ半減していることを広く市民にもお知らせすることができました。これも、学校歯科医の指導のもと、全ての学校で養護教諭や保健主事を中心に真摯に取り組まれているおかげと、ねぎらいと感謝の念で一杯です。

また、土岐津小は県教育委員会が推薦する今年度の「岐阜県優秀校」（岐阜新聞社主催）も受賞しました。小学校における教科専門性向上や学力向上の取組が評価されたもので、県内小学校2校の受賞校のうちの1校として認められた、誉れ高い受賞でした。当校には、現在も特別支援教育や外国語教育の拠点校としての役割を担っていただいております。今後の活躍と発展がますます期待されるところです。

さらに、土岐津中学校の片田誠教諭は、県教育委員会が推薦し、文部科学省が選定する「優秀教員」として表彰されることとなりました。東濃地区教育推進協議会の教科指導員を務め、自校にとどまらず、市や東濃地区内の理科教育、学力向上に手腕を発揮してきました。指導的な立場でのますますの活躍を期待してい

るところです。

最後に、妻木小学校は、東濃地区教育推進協議会の図書館教育賞事業において、「総合優秀賞」に輝きました。本事業は、図書館教育を学校の特色として取り組み、審査を希望する学校がエントリーするものです。当校は市内で唯一毎年エントリーしており、地道な取組を継続してきました。「コツコツ」と成果を積み上げて、最上位の「総合優秀賞」に上り詰めたのです。揺らぐことがない信念のある姿勢に、心から敬服するものであります。

最後の最後にもう少し。中学校も頑張っています。肥田中学校は、県教育委員会が主催する学校給食選手権において、3年連続で一次審査を突破し、決勝（二次実技審査）進出を果たしました。また、先日は全中学校の生徒会の代表が泉中学校（今年度のホスト校）に集結し、「生徒会サミット」を実施しました。各中学校のリーダーたちの地に足が着いた主体的な発言と自治能力の高さに感嘆しながら、一方で何となく安堵した（未来への不安を払拭した）ことを覚えています。

紙面も足りませんので、これくらいにしておきます。手前味噌で恐縮ですが、「恐るべし！土岐市の学校と先生」と、勝手に喜びを噛みしめる今日この頃です。



『はい、ひゃく円です！こころをこめてつくったので、おいしいクッキーですよ。』

撮影者 肥田小学校附属幼稚園

栗木 美紀代 先生

教育する力をつけることの大切さ

泉中学校 西尾 新

1 はじめに

この夏、茨城県つくば市にある教職員支援機構で3週間の研修を行ってきました。このような貴重な研修の機会をいただけたことに感謝しています。この研修では、マネジメント概論やスクールコンプライアンスなどについて、全国から集まった200名ほどの先生方と一緒に約30コマの講義や演習を行いました。この研修を通して学ばせていただいた内容の一部を報告します。

2 特別支援教育の充実

特別支援教育とは、支援を必要としている児童・生徒のニーズ（困っていること）に応える教育です。ユニバーサルデザインを取り入れることは、インクルーシブ社会の実現、不登校・いじめ問題の減少、学級経営能力や学力の向上など、学校経営に大きく影響します。

支援のポイントは、「刺激の調整」「分かりやすい説明や指示」「活動の構造化（スケジュール・ワークシステム・ルーティン・物理的視覚的構造化）」です。

現場には様々な支援を必要とする子どもが増えてきており、その一人一人のニーズに応じたきめの細かい指導をする必要があります。「教育こそ最大の治療なり」という言葉の通り、特別支援教育の視点をもって一人一人の子どもを大切にしている教育が展開されなければなりません。

3 リスクマネジメント

リスクマネジメントとは、組織の目的達成を阻害する要因に対応する統制・調整された活動のことです。「未然防止」の考え方は浸透してきていますが、この成果はある程度の期間が経ってからしか手応えを感じることができません。また「実際には起こらないだろう」「たいしたことない」「まあ、何とかなるだろう」という意識が質の低い未

然防止活動となっています。まずは、「リスク予測」への思考移行が望まれます。学校のどこに、どのようなリスクが存在しているのかを洗い出し、そのリスクがどのような影響を与えるのか、何からどのような対策を講じなければならないのかを明確にしようとするのが「リスク思考」への移行の鍵となります。

4 コーチング

コーチングとは、一言でいうと力をつけるための教育的な支援過程のことです。この際、大切にしなければならないこととして、円滑なコミュニケーションスキル（カウンセリング理論をベースとして）、聞き手に徹すること（受容と共感を大切に）、“Yes-No 質問”（閉ざされた質問）ではなく、“5W1H 質問”（開かれた質問）を用いること、相手の気持ちやその場の雰囲気と同調した声掛け（“チューニング”）などが挙げられます。コーチングの3つの心構えは、「信・認・任」であり、人は信頼されて育つことを念頭におくべきです。

5 研修を通して

今回の研修では、文部科学省の先生方や各分野の著名な先生方の講義や演習を行うことができました。また、全国の先生方と話す機会をいただけたことで、全国の特徴ある取組を学べたことも貴重な体験となりました。研修を通して、我々教員が子どもへの指導だけでなく、学校運営などの視点でも「教育する力」をつけていく大切さを痛感しました。今回研修させていただいた内容をさらに実践を通して深めていきたいと思えます。



▲演習の様子

濃南小・中学校連携教育の取組について

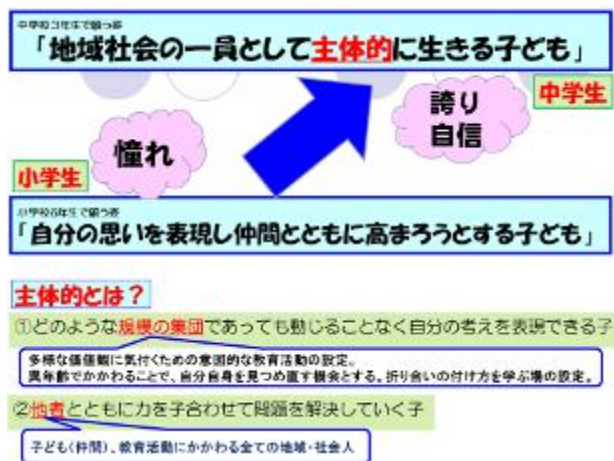
濃南小学校・中学校

1 はじめに

人数が少ないゆえに思うような活動ができない状況を解消すると共に、校舎が併設されたよさを生かして、小中連携をして教育環境を一層充実させることが大切であると考えた。また、少人数になったことを逆にメリットとして捉え、教育の提供をしていくことが、教育の質を向上させていくことに結びつき、一人一人に確かな力を身に付けることができると考えた。

2 連携の目的・願う姿

- (1) 義務教育9年間で育てるという視点に立ち、スムーズな連続性を図り、小中が一体となった教育の特色を目指す
- (2) 小中が一体となって、保護者や地域との関わりをさらに深め、地域の一員として主体的に生きる子どもを育てる



3 組織運営について

- (1) 小中校長・教頭会→円滑な組織運営のための見通しを話し合う場
- (2) 小中連携企画委員会→学習・生活づくり部の取組を確認する場
- (3) 小中合同二部会→各部長を中心に連携内容を確認・検討する場
- (4) 小中合同連携会議→進捗状況・意義の確認の場

4 学習づくり部

(1) 小中の研究テーマの統一

「主体的な学び合いを通じた確かな力の育成」

(2) 研究テーマに迫るための取組

① 「兼務教員による授業」

担任と兼務教員の役割を明確にすることで、児童生徒一人一人に合わせた指導を行い、専門性の高い指導を行うことを意識する。

(ア) 外国語活動の取組



それぞれの教員が役割を分担して児童の実態把握をし、それに合わせた支援を行っており、児童にとって安心して学ぶことのできる場となっている。T2に

よるネイティブな発音に触れ、日本語との発音の違いを「面白い」ととらえていた。外国語の学習内容について96%が「わかる」と答えている。「楽しい」と感じている授業が学習内容の理解にもつながっていることが分かる。

(イ) 数学の取組

習熟に合わせた指導を行っている。T2は、個のつまづきや伸びなどについてT1に助言し共通理解し授業改善につなげている。数学を「きれい」と思っている生徒は約30%いる。しかし、数学の学習内容については、100%が「わかる」と答えている。T1・T2連携の授業展開は、生徒の学習理解につながったといえる。



5 生活づくり部

(1) 小中団結(合同)運動会

プロジェクトチームを立ち上げ、児童生徒の思いを大切にしながら準備を進めた。小学生は、中学生の力強い競技の姿や応援合戦にみられる一体感にあこがれの思いを抱いた。中学生は、小学生に対して思いやりの心をもって接し中学生としての自覚をもつことができた。



(2) 小中合唱交流会

小学生が中学生の合唱に驚きとあこがれを抱き、中学生になったらこんな合唱を作り上げるのだという、希望と見通しをもつ活動を仕組んだ。また、中学生が心に響く合唱をどのようにつくり上げるのか、練習の過程を小学生が見学する活動も取り入れた。



6 今後について

児童生徒一人一人が主体的に生きる力を身につけていくために「兼務教員の有効な活用の仕方」「児童生徒のニーズに合わせた日常的な営み」について考え実施することを大切にして取り組む。

第4回土岐市学力向上推進委員会（兼第2回東濃地区学力向上推進会議）報告

「学校の現状の読み解き方と指導改善プラン」

講師 岐阜大学教育学部 学習協創開発研究センター長 益子典文 教授

学力向上企画委員 西陵中学校 吉村 康介

第4回土岐市学力向上推進委員会を行いました。土岐市内各校がより実効性のある指導改善プランを作成するために、岐阜大学から益子典文教授をお招きし具体的なアドバイスをいただきました。

益子先生にお話しいただいた内容は、各種調査の分析・指導改善プランの作成だけでなく、先生方のご実践を分析・検証される際にも参考にしていただけるものと思います。



学校の現状の読み解き方と指導改善プラン（要旨）

1 学力調査から授業のあり方を考える

全国学力学習状況調査や岐阜県学習状況調査から教科の得点率や問題に対する解答累計を分析することで見つかる課題がある。

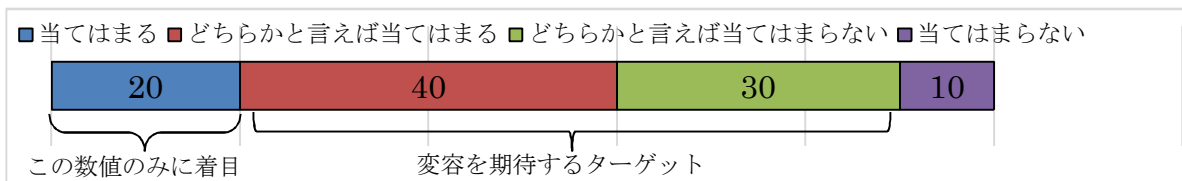
- ・教師が「指導している」（と考えている）内容が児童生徒の学力に反映しているか。
- ・「思考・判断・表現」を育てる活動は十分か。
- ・国語、算数数学の授業だけで考えていてよいか。

2 学力学習状況調査の何を分析するか

学力調査から授業のあり方を考えるのではあるが、わずか1年程度で点数の変動が期待できるものではない。学年の実態もあるので、調査学年が異なれば結果が異なることもあるという認識も必要である。しかし、質問紙は学校の実態や状況を捉える上で十分検討に値する。

3 意識調査（質問紙）の読み解き方（活用法）

質問紙のある設問において、下のグラフのような結果があったとする。このとき、着目するのは「あてはまる」の数値である。よく「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」という回答を合わせて検討されることが多いが、「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」と回答している児童・生徒こそが変容を期待するターゲットである。また、「あてはまらない」と回答している児童・生徒は配慮の必要な児童・生徒であると捉えるべきである。



4 項目は2つに分けて考える

変容・向上を期待する項目は2つに分けて考えるべきである。

- ・教師の意図で向上する項目
（例）授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。
（例）家で、学校の宿題をしている。
- ・児童生徒の認識変容で向上する項目
（例）話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。
（例）自分で計画を立てて、家で勉強している。

益子教授の講話の後、校区ごとに指導改善プランの交流と校区における学力学習状況の分析が行われました。何をどこまで伸ばすのか、そのためにはどのような取組をしなければならないのかといったことについて熱心に議論されました。各校の学力向上に向けた取組はまだ途中ですが、1月に行われる岐阜県学習状況調査において成果が確かめられるとよいと考えています。

「私の教育実践」

子どもの思いに寄り添う保育

駿知小学校附属幼稚園 教諭 平井 千映子

色とりどりの落ち葉が園庭に舞い落ち、子ども達が夢中になって集めた。それらを毛糸に通してネックレスにして年長児が遊んでいると、目を輝かせた年少児が駆け寄ってきた。無言で見つめる年少児に、「これ作りたいの？」と少し身を屈めて聞き、頷く年少児を手招きしながら連れて行った。葉っぱ選びを見守り、虫食い穴に毛糸を通すことを教えるが、難しそうに見えたのだろう。「やってみようか？」と代わりに通し、出来上がったネックレスを首からかけてあげた。「素敵なネックレスを教えてもらえたね。うれしいね。」という私の言葉に、二人の笑顔が輝いた。

園庭での遊びの中で、こうしたかかわりがたくさん生まれるよう、週に一回異年齢児のペア集会で、友達の気持ちに触れたり、考えたりできる遊

びを仕組み、かかわる力を育んでいる。遊びの中で、相手に声をかけ思いを聞き出す子もいれば、相手の行動を見たり待ったりして探る子もいる。自分の思いだけで行動する子もいれば、小さい子にリードされる子もいる。一人一人の段階を捉えながら、目にとまった優しさや思いやりの行動を言語化して聞かせ、相手の嬉しさや楽しさにつながったことを実感させ価値付けている。遊びの中で感じたことをクラスの仲間と交流する時間を持ち、楽しかったことを共感するだけでなく、自分と違う友達の考えや行動を知り、学び（真似び）の場も作っている。

子どもの思いに寄り添いながら、気付きを促したり、一緒に考えたりしながら、心で感じる体験を大切に、積み重ねていけるようにしたい。

「私の教育実践」

小学校理科における濃南型少人数指導の授業実践

濃南中学校 教諭 水野 秀信

○平成28年度より、小中連携教育の一環として、兼務教員による教科指導が始まり、濃南小学校6年生の理科の授業を担当させていただいている。そこで濃南小中の少人数を生かした指導法（濃南型少人数指導の授業）を模索してきた。

1 実践

(1) 一人一実験（一観察）の推進

○昨年度は8名、今年度は22名の児童の理科を担当している。少人数ならではの特徴を生かして一人一実験（一観察）を進めてきた。

☆動物のからだのはたらき

- ・一人一人がだ液がデンプンを消化するはたらきを調べる実験で、ヨウ素液を使って実験した。

(2) 科学的思考を育てる「濃南タイム」の導入

○主体的な学びができるように、効果的な仲間との追求（濃南タイム）を小学校でも取り入れた。

理科では実験後の考察の場面で取り入れ、その後の全体交流に生かしている。

(3) 終末における練習問題の位置付け

○授業の終末では、練習問題を位置付け、定着状況の見届けを行っている。

☆大地のつくり

- ・堆積岩の種類を答える問題

☆てこのはたらき

- ・てこが水平につり合うきまりを使った計算問題

2 成果と課題

○アンケートの結果、「理科を好き」と答えた児童が90%を超え、1学期のまとめのテストでは平均点が高くなったことが成果で、実験観察を通して科学的思考力を高めていくことが課題である。

気持ちを落ち着かせてくれる言葉

駄知中学校 校長 磯貝 隆

人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し。
急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし。
心に望みおこらば困窮したる時を思い出すべし。
堪忍は無事長久の基、怒りは敵と思え。
勝つ事ばかり知りて、負くること知らざれば害その身に至る。己を責めて人を責むるな。
及ばざるは過ぎたるよりまされり。

(徳川家康遺訓)

これは、私が祖母に教えてもらった言葉です。
私がまだ小学校に入学する前、徳川家康がどんな人かは知りませんでしたが、暗唱できるまで繰り返し唱えさせられました。そのために、今でもすらすらと言えます。

小学校に入学してからは、緊張した時や困ったことが起こった時にはいつも唱えていました。例

えば、音楽の歌のテストの前、サッカーの試合で勝敗を決するPKを蹴る前、高校や大学の入学試験の開始前など、この言葉を唱えるとなぜか心が落ち着きました。それは、今でも同じです。

これまで多くの言葉と出会ってきましたが、この言葉に助けられたことが一番多くあったように思います。

特に、結びの「及ばざるは過ぎたるよりまされり」の部分で、「完璧でなくてもよい。及ばなかった部分を次の目標にしていけばよい」と自分に言い聞かせて物事に当たることで、気持ちが楽になりました。

そして、これからも緊張したときに心を落ち着かせるために、自分はこの言葉を唱え続けていきます。

掲 示 板

～おめでとうございます～

◇平成29年度 第58回県学校歯科保健優良校表彰

【大規模校の部】《準県一位》土岐津小学校

【中規模校の部】《特選校》肥田小学校 《優良校》妻木小学校・駄知小学校

◇第60回県優秀校表彰（岐阜新聞・岐阜放送主催 県教育委員会協力）

土岐津小学校

◇平成29年度 東濃地区学校図書館教育賞

《総合優秀賞》妻木小学校

◇平成29年度 県中学生学校給食選手権

《食育マイスター賞》肥田中学校

◇平成29年度 学校給食表彰

《共同調理場部門 文部科学大臣表彰》土岐市学校給食センター

◇平成29年度 文部科学大臣優秀教職員表彰

土岐津中学校 片田 誠 教諭

